

§1 1期を通しての流れ

- ・前期・後期にかかわらず本質的なのは、

時間割作成期間→履修登録期間→履修登録確認・修正期間→履修取消期間→試験期間

という大まかな流れである

- ・この期間だけではなく一般に言えることだが、KULASISは学生生活を行う上で要となる重要なシステムである。こまめにチェックしよう。
- ・試験期間は通常2~3週間行われる、これもKULASISに日程・場所が上がるのでチェックしておこう（とくに場所は）

§2 履修登録について

- ・時間割作成期間はその名の通り時間割を仮に組んでみる期間。しかしここで時間割に組んでおかないとしておかないと基本的に登録不可なので、気になる科目は積極的に時間割に組み入れよう（三重登録制度をなくした教務はクソ）。
- ・まだ履修が確定していない科目の教科書を買う必要はないが、科目によっては初回授業で参加者の出席を取り、初回にきちんと出席した人のみ履修を許可する形式の先生もいるので、初回授業にはきちんと出席することをお勧めする。
- ・履修登録期間も、その名の通り履修登録をおこなう期間。時間割作成期間に組んだ科目のうち、授業に数回出てみて受けたいと思った科目を本登録する期間、**ここできちんと登録をしないとひどい目に合う**。というのもこの期間に履修登録をうっかりし忘れると、事実上まっさらな時間割が組まれる。これで君も前期0単位だ！！
- ・履修登録確認・修正期間も、またまたその名の通り確認・修正を行う期間。この期間で履修登録が確定するといつてよい。ただし、うっかり忘れてしまっても登録期間にきちんと登録しておけばその登録情報が引き継がれるのみなので、登録をきちんとした諸君は大丈夫。登録期間に登録をしなかった奴はおしまいです。
- ・履修取消期間も、例にもれずその名の通り履修を取り消すことができる期間。これは前述の3つの期間よりもかなり後（前期後期それぞれの中盤ごろ）に設けられており、履修してみたものの興味がなくなってしまった・ついていけなくなってしまった等、何らかの理由により取り消したい科目がある場合に取り消せる。

§3 系登録・卒業要件について

- ・系登録、卒業要件には次の単位取得数が義務づけられている（原則として1コマ2単位で計算すればよい）。

科目区分		系登録に必要な単位数	卒業に必要な単位数
一般教育科目 (全学共通科目)	人文・社会科学科目	12単位以上 下記の分野に含まれるE科目は2単位まで認める。	12単位以上 24単位まで 下記の分野に含まれるE科目は4単位まで認める。
	外国語科目	16単位以上 (英語8単位、英語以外の外国語8単位)	16単位以上 20単位まで
	少人数教育科目	4単位まで	
	その他の科目	4単位まで	
		全学共通科目「情報学科目群」「健康・スポーツ科目群」「キャリア形成科目群」「統合科学科目群」のうち、専門基礎科目に分類される科目を除く。	
専門基礎科目		24単位以上 38単位まで	理学部科目の専門基礎科目と全学共通科目「自然科学科目群」などから理学部が専門基礎科目に指定したもの
専門科目	32単位以上	理学部科目のうち専門科目に指定したもの。	卒業研究科目1科目を含み、54単位以上 理学部科目のうち専門科目に指定したもの。 卒業研究科目(必修) 数学講究 物理科学課題研究 地球惑星科学課題研究 化学課題研究 生物科学課題研究
総計	69単位以上		138単位以上 科目区分ごとに上限を超えない範囲の単位数の総計が138単位以上であること。
E科目	2単位以上	4単元以上 全学共通科目のE科目。上記単位数に含まれるものも、含まれないものも算入する。	

3.1 専門科目以外について

- ・ 人社科目の E2 科目は、「今年から 4 単位まで認める」に変更がありました（この資料は 2017 年度版です）。
- ・ 人文社会科目について、系登録と卒業単位の最低単位数が一致している（12 単位/6 コマ）。ただ、注意しなければならないのは、7 つの分野から少なくとも 3 分野の人社科目を履修しなければならないことである。
- ・ 外国語科目も単位数としては人社科目と同様。これはクラス指定の英語 WL・R、2 外文法・演習を前期後期きちんと取り切れればぴったり足りる。
- ・ E 科目は E1、2、3 に分かれており、系登録までに 2 単位（1 コマ）、卒業までに 4 単

位 (2 コマ) である。後述するが、早めにとることを推奨する。

- ・ E1 科目は英語テキストの購読を主とした授業によって得られる。
- ・ E2 科目は通常の授業を英語授業で履修することで得られる。履修の手引き p8 意向を参照するといいが、同じ科目でも重複履修で単位認定される科目、されない科目がある (太線で囲われている科目は認定される)。よく確認するとよい。
- ・ E3 科目は英語スキルの向上を主目的として、英語の討論や発表などをする授業を受けることで得られる。

3.2 専門科目について

- ・ 専門基礎科目と専門科目でいっぱい取らなきゃいけない (知性 ε)。でもまともにとってればなんだかんだ足りるし大丈夫 (のはず)。
- ・ 希望する系によって、系登録の推奨科目が指定されている場合がある。絶対取らねばならない、というわけではないが推奨されている以上取っておくのが無難だろう。

以下、各系の先輩に 1 回生におすすめの上回生担当についてアンケートをとった結果について述べる。

数学系

- ・ 集合と位相 (2 回生担当・前期)
これをやるとできる数学がぐっと広がる印象がある。予備知識もほとんど仮定されていないので、本当に 1 回生でも取れる。
- ・ 代数学入門 (2 回生担当・後期)
これも数学をするのに基礎的概念という感じ。たのしい。線形代数 (行列) がわかっていると、余因子論のあたりでアドがとれる。
- ・ 現代数学の基礎 A,B (1 回生担当・通年)
演習を通じて数学的な証明の書き方の練習ができる。採点も丁寧なのでうれしい。へらへらしていると気がついたら難しくなっているので注意が必要です。
- ・ 現代の数学と数理解析 (全学共通科目・前期)
去年は初回で殺戮が起きましたが、オムニバス形式なので不安を感じて履修を切らずとも大丈夫です。
- ・ 論理学 (全学共通科目・人社・通年)
数理論理学のための基礎的な事項を学ぶことができる。後期は同じ名前で 2 つ授業があり、山口論理学ではカジュアルな様相論理を、阿部論理学では不完全性定理を取り扱う。阿部論理学の方が山口論理学よりもより数学的な取り回しをするような印象を受ける。興味のある方を取ろう。

物理系

- ・物理のための数学 1 (2 回生担当・前期)
先生の喋り方がまず面白いのと、電磁気学で必要なベクトル解析の知識を学ぶことができる。テストは過去問やればいける。
- ・解析力学 1 (2 回生担当・前期)
畑先生が、先生の書いた教科書を元に授業をしてくれる。普通に良い。テストは過去問やれば余裕。新歓講義の内容を含む。偏微分の知識は多少要る。
- ・電磁気学 A (2 回生担当・後期)
電磁気学の初歩が学べる。テストでは事前公開の 30 問ほどからの 6 つほどがでて、そこそこ難しい。
- ・Theory of Special Relativity-E2 (全学共通科目・後期)
E2 だし特殊相対性理論をもともと知っていた方がいいかも。先生の英語ドイツ訛りっぽくて聞き取りにくいし。

地学系

- ・地球科学実験 (全学共通科目・前期)
前提知識は不要です。実験時間内でできるフィールドワークなどを通して、地球科学の手法を体験的に理解します。負担は小さいです。最後までやる気があれば是非。
- ・地球の物理 (全学共通科目・前期)
地球科学のうち、地球物理学に含まれる様々な課題や研究を紹介してもらえます。
- ・地質科学概論 1 (2 回生担当・前期)
担当教員が変わりました。
去年までこの講義を担当されていた酒井さんの『地球学入門』の内容をピックアップしながら地球科学全体を扱う、と思われま。高校地学をさらいたい人は是非。地球物理系志望の人も取って。
- ・基礎地球科学(全学共通科目・通年)
履修していません。が、人間環境学研究科に所属している先生の地球科学の講義はほぼこれしか取れないと思われま。地球科学実験等で気になった先生がいるなら行ってみるといいと思われま。

生物系

- ・細胞生物学(2 回生担当・前期)
生物をやる上での人権を与えてくれる講義。三人の先生が担当するが、森先生の担当パートが一番面白い。
- ・植物分子生物学(3 回生担当・前期)
ちょっとニッチな分野ではあるけれどトピックとしては面白い内容を扱う。例えば、カラシ爆弾とか植物の根の核の運動とか気孔形成とか。担当の先生が優しいので 100

優をくれる神。

- ・分子情報学(3回生担当・前期)
内容はマイクロ系の中では一番難易度が高いくらいではあるけれど、意外と面白い。試験内容は普通に難しい(全講義内容を体系的に把握・記憶していないと解けない)けれど、皆できないので単位は普通にくれる。
- ・数理生物学(3回生担当・前期)
植物分子生物の裏だったので取れていないけれど、内容はそれなりに簡単で面白いトピックを扱っていた。
- ・細胞内情報発信学(3回生担当・前期)
全く受けていないけれど、内容はそれなりのレベルで、担当が森先生なので分かりやすく面白く説明してくるはず。金4なので被る講義も少なくて穴場かも。
- ・分子生物物理学(3回生担当・後期)
一回の微積分を知っているくらいで余裕に受けられる。内容としては生物物理というよりも数理生物・システム生物学的な分野に属するかも。
- ・植物分子遺伝学 I (3回生担当・後期)
内容は簡単。厳密性を完全に捨ててラプラス変換の話をするのでなんだおめえ・・・ってなる。他の講義とは趣が異なるので、純生物の人が受けると新鮮で面白いのかもしれない。
- ・幾何学入門(2回生担当・後期)
人間なら取るべき。
- ・動物行動学(3回生担当・後期)
少しでも生物に興味があればどの系でも絶対に面白い内容。めちゃめちゃ広いトピックを色々触るので楽しい。個人的には数学をしてほしい。成績評価は辛い。
- ・統計力学 A (2回生担当・後期)
これも生物系なら取った方がよい。
- ・生命情報学(工学部担当・4回生担当・前期)
工学部担当。要するにバイオインフォマティクス。認知とか脳の前半パートと配列とかネットワーク解析の THE バイオインフォみたいな後半とに分けられる。前半の方が楽しいかも。後半は大体内容知っていると楽しい。成績評価がガバガバ。
- ・生物物理学入門(全学共通科目・前期)
5人の教員が持ち回りで自分の専門について話してくれる。色んな分野の話のある程度のレベルまで聞けて楽しいかもしれない。ちなみにそれぞれの教員の話は専門の2,3回生担当の科目の要約(神経生物学・細胞生物学・分子生物物理学・構造生物学に相当するっぽい)
- ・植物科学のフロンティア(全学共通科目・前期)
めちゃ簡単なパートとただの研究紹介のパートとの難易度の落差はある。簡単なパ

ートは高校生物なので人間ならできる。試験もほぼ高校生物。ただ研究紹介パートの方が断然に面白い。

化学系

- ・基礎有機化学 I, II (全学共通科目・通年)
授業がゆっくりでわかりやすい。毎回小テストをしてくれるので理解の定着が促進される。テストも授業内容が分かっていたら単位を取るの容易。
- ・基礎物理化学 (量子論) (全学共通科目・前期)
完全に物理。テストは授業の内容が理解できて、授業内容について覚えていればテストは解ける。量子論がやりたいなら取っておくべき。

§4 他、お役立ち情報

- ・Twitter は便利な情報収集ツールです。「#KU 教務情報」で検索してみよう！
- ・Springer が無料で落とせる！ぜひ活用しよう！
- ・吉田宿舍宿
- ・KTGU セミナー
- ・ガロワ祭 (数学)
- ・ローレンツ祭 (物理)
- ・ウェゲナー祭 (地学)
- ・オープンラボ (生物)